

第693回番組審議会報告

2024年11月5日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長、川瀬慈委員、木戸哲委員、小島幸保委員、津村記久子委員、増山実委員、安田真奈委員

■毎日放送出席者

宮田副社長、高山常務、酒井常務、磯澤取締役、北野取締役、中野取締役、田淵総合編成局長、池邊東京制作担当局長、井ロスポーツ局長、沖プロデューサー、上原ディレクター、奥田コンプライアンス局長、中西番組審議会事務局長

◆審議事項

テレビ番組「情熱大陸 ～阪神甲子園球場～」

(2024年8月25日(日) 23:00～23:30 放送)

【概要】

2024年8月、100周年を迎えた甲子園球場。グラウンドキーパー、場内放送担当、警備員…様々な立場で球場を支える人々に密着。彼らの仕事への情熱、そして甲子園への深い愛情を描く。また岡田彰布氏、鳥谷敬氏、松井秀喜氏など、甲子園に縁のあるレジェンドたちが、それぞれの視点から聖地の魅力を語る。戦争、震災、コロナ…幾多の困難を乗り越え、人々を魅了し続ける甲子園。100年の歴史を振り返り、聖地であり続ける理由に迫ります。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * 『情熱大陸』が甲子園球場という「人ではないもの」にスポットを当てる試みが大変面白いと思った。
- * 甲子園球場という場所を、グラウンドのコンディションを整えることに頑張っている人たちや、警備員、アナウンスの担当者などそこにかかわるさまざまな人の視点から多角的に読み解いていくのは、すごくいいと思った。
- * 建物をメインに扱っているが、そこで働く人たちの言葉を集めて働く人々の誇りをお届けできている番組だと感じた。
- * オフシーズンにグラウンドを作るためにあれほど時間をかけて整備の仕方によってボールの弾み方が変わるというのも初めて知ったので大変面白いと思

った。

- * 場内アナウンスの窪田さんが、手を使いながらトーンを自分で調整してしゃべるところとか、何人も印象的な人がいて、どの人もいいと思った。群像劇としてよくできていた。
- * 『情熱大陸』は取材対象に密着して本音をすくい取るのが持ち味だと思うが今回は普通のインタビューの域を超えてないと思った。取材対象を広げ過ぎたのも一つの原因ではないか。
- * 清掃員の方が「こんな景色見られるだけで幸せかも」とすごくいい言葉を言っているのに間髪おらずにCMに行くのはもったいないと思った。
- * 甲子園球場に対してハッピーバースデーを歌った後に「そんな球場、ほかにない」というナレーションは蛇足だと思った。
- * 甲子園球場はファンに支えられていると思うので、ファンのお話もあったほうがよかったのではないか。
- * 『情熱大陸』では扱われる人についてすごい人だと思わなければいけないとか、すごいと思うところを探さなければならないという圧を時々感じることもあるが、今回はそういう場面がなかったのですごく見やすかった。
- * 有名なプロ野球選手がインタビューに答えていたが過去の映像だけでよかったのではないか。
- * すごく名を成した人が成功者であるかのように若い子たちとか子どもたちは思ってしまうが、このように番組で名もなき頑張る方々、陰で働く方々に光を当てると、その姿を見て裏方の仕事にもすごく尊いやりがいがあるということに気づけると思う。これからも名もなき頑張っている方々を定期的に取り上げていただきたい。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- * プロ野球選手のインタビューは、甲子園球場で野球をしていた人たちがどう感じ、どう愛していたのかその人にしかわからない話をしゃべってもらおうという狙いだった。
- * 群像劇として成功したかそれとも総花的だったかは見る人によって異なると思うが、「情熱大陸らしくない」ことをしていかないと番組としてはずっと同じことの繰り返しになる。
- * 余韻がないという指摘については、この回に限らず、毎回現場で苦しんでいる。ナレーションで言わないとわからないんじゃないか、伝わらないんじゃないかという制作者特有の不安がある。蛇足だというご意見の反面、よくわからなかったという声をいただくこともあり、そのバランスを常に考えている。